

とは言えない。むしろ恵まれない環境で要保護の対象となるべき子どもが多いことがわかる。一方保育施設に対して多くの家庭は何らかの関心をもっている。その障害となっているものは施設の不足と経済的負担、施設の経営方法や父兄の偏見などが挙げられる。現在の保育施設のあり方、社会の人々への啓蒙、反省と努力によりよき児童福祉の進展を念願する。

幼稚園教員養成機関の学生の理想とその特色

東京学芸大学

芦田昇

東京都の二つの幼稚園教諭養成機関の学生一七二名と四年制の教員養成大学の学生女子六三名男子九五名について理想(現在代表的なもの)の調査をおこなった。一のねらいは両者間の視野の広狭をさぐるところにある。が、学制上の差としてみるには大学生が一定水準の成績を入学試験で示しているのに対して養成機関学生はそれほど厳密な試験でふるわれていない点に問題がある。また大学生は専修が分かれているが各学年全科の学生を含まず、特に幼稚園教育科との比較でなく、最終学年の資料が欠けている。予備調査としての意味で結果を示すと次の通りである。

理想は職業、研究と趣味、生活一般の三領域にわかれる。大学生男女間には男子に「思想の独立」をあげる者が一〇名ある(女子無

し)ことを除けばほとんど見るべき差はない。養成機関学生と大学生間では前者は職業領域七〇%生活一般領域二〇%で後者は職業三九%生活四六%で両領域の重味は反対である。その差に量的には意味があるが、質的な面は明らかでない。特に注意すべき点は養成機関学生では大学生にくらべて職業の中でも教育関係がすぐれ(六七%対二七%)、教職に限らず特に直接教育面(経営八%および指導九%)をあげる者が多いことである。

理想の樹立期はいずれも過半数が高校卒業後特に現在校に在学中になつてゐる。中には幼稚園、小学校時代にあると云う者があり、早期樹立の傾向は明らかに養成機関学生(一二%、大学生は四%)に強い。樹立が確立を意味するかどうかは問題であるが、前者は興味

の固執性が強いと云えよう。動機について略言すれば(明確でないものや二重のものが少なくないが)、大学生では共感型が多く養成機関学生では愛惜型、価値認識型が多い。また前者では読書の影響が濃く、後者では対象と直結する傾向が著しい。

職業興味テストより見たる 保育母についての研究

——第一報 殊に動態的体質学的考察——

長野県下諏訪町第二保育園

杉村雅子